地区運営方針：「持続可能なインパクトの創造」

クラブ会長方針：「未来のための原点回帰」～ Going back to basics for the future ～

国際ロータリー第2790地区 第３グループ
千葉西ロータリークラブ
Rotary Club of Chiba-West
WEEKLY COMMUNICATION

創　立　1976年1月20日　　承　認　1976年2月25日
会　長　白井貴博　　幹　事　真野匡章
例会場　京成ホテル ミラマーレ
〒260-0014 千葉市中央区本千葉町15-1
TEL 043-222-2111
例会日　毎週火曜日 12:30～
事務局　〒260-0001 千葉市中央区都町1-2-3
TEL 090-3484-2790
E-mail：chibawestrc@wrpc.co.jp
URL：https://www.chibawest-rc.net/

■ 会長挨拶 / 白井貴博 会長



皆様こんにちは。
今月ももう終わりとなり、８ 月の例会も今日で最後となります。今月は第一例会で親睦活動委員会主催の納涼例会が開催され、ベイオッパーズの皆様の演奏を聴き、またカラオケ大会で大いに親睦を深めました。第二例会では職業奉仕委員会の職業卓話として、西川パスト会長から卓話をいただきました。会社で取り入れているシステムによる無駄の削減、それにより利益が上がったというお話があり、大変勉強させていただきました。そして本日はガバナー補佐公式訪問ということで、江上ガバナー補佐より卓話をいただきます。
７ 月の卓話で発表された各委員長からの活動計画に基づき、各委員会の事業が着実に実行に移されているなと、当たり前ではございますが感じているところでございます。各委員長の皆様、９月以降も引き続きよろしくお願いいたします。
さて､本日のガバナー補佐公式訪問ですが､「なぜガバナー補佐が訪問されるのか」につきまして、入会歴の長い会員の皆様はご承知のことと存じますが、入会歴の浅い会員の皆様もいらっしゃいますので、私が勉強した範囲で少しお話しさせていただきます。
ガバナー補佐公式訪問（アシスタント・ガバナー公式訪問）とは、国際ロータリー（RI）の地区において、地区ガバナーの代理としてガバナー補佐（Assistant Governor: AG）が担当クラブを公式に訪問し､クラブの運営状況の把握やガバナー方針の伝達、意見交換を行う行事・会議です。ガバナー補佐は、ガバナーと各ロータリークラブを結ぶパイプ役であり、公式訪問は単なる視察ではなく、クラブの活動を支援・活性化するための重要なプロセスとして位置づけられています。
主な目的は以下の通りです。

- ガバナー方針の周知と浸透：今年度の RI テーマや地区ガバナーの年間重点目標・方針をクラブ会員へ直接伝え、理解を深めます。
- クラブ運営・目標の進捗確認：各クラブが掲げる目標（会員増強、ロータリー財団 / 米山記念奨学金への寄付、奉仕プロジェクト等）の達成状況を確認し、助言やサポートを行います。
- ガバナー公式訪問に向けた事前協議：のちに控える「地区ガバナー公式訪問」(千葉西ロータリークラブは９月８日)を円滑に進めるため、クラブの現状や課題、要望などを事前に整理・協議します。
- 意見交換と課題解決：クラブが抱える悩み（例：会員の定着、例会の活性化、地域奉仕の方向性など）を聞き取り、地区の支援体制へつなぎます。

以上は一般的なガバナー補佐公式訪問およびその目的についてのお話ですが、今年度の第 2790 地区　地区運営方針でのガバナー補佐によるクラブ運営・管理業務の重点事項としては、次のような点が挙げられています。
① 会員の入会と参加促進の重要性を強調　② 各行事への参加を通じて、クラブと地区の活動やプロジェクトに参加するよう奨励　③ ロータリープログラムへの参加を奨励し、財団の認証プログラムを通じて財団への資金的援助を奨励　④ 表彰や賞を通じて、個々のロータリアンの功績をたたえる　⑤ 地区の将来を計画する　※『クラブ･リーダーシップ･ラーニング・セミナー』冊子より抜粋
また、第３グループのガバナー補佐選出はクラブ創立順による各クラブの持ち回りが通例となっております。
簡単ではございますが、ガバナー補佐について私なりのご説明となります。少しでもご理解を深めていただいた上で、この後の江上ガバナー補佐の卓話をお聴きいただければ幸いです。
以上を持ちまして本日の会長挨拶とさせていただきます。

■ 四つのテスト / 田中和貴 会員



「言行はこれに照らしてから」
真実かどうか
みんなに公平か
好意と友情を深めるか
みんなの為になるかどうか

■ マルチプル・ポールハリスフェローの表彰
大森薫会員（第 7 回名）



■ お客様
江上俊彦様
(RID2790 第 3 グループガバナー補佐)



■ 幹事報告
・なし

■ 委員会報告
・国際奉仕委員会
昨日から台湾が大雨の被害にあわれております。高雄でも被害が生じております。いつもは日本が被害にあっているのでこういう時こそメッセージを送れたらと思います。会長と相談の上、書面でお見舞いを申し上げたいと思います。

■ ガバナー補佐卓話　江上俊彦 様
皆さま、こんにちは。本日は、このような卓話の機会をいただき、ありがとうございます。

卓話を始めさせていただきます前に、先々週の8月 13 日の線状降水帯による豪雨被害にあわれ亡くなられてかたのお悔やみを申し上げます。また、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

千葉市中央区から若葉区にかけての 24 時間の降水量が 362 ㎜は、再現期間が 574 年に 1 度、約 0.17%／年との確率の豪雨との計算です。親子三大夏祭りの実行委員の皆さんの開催準備がすべて整っていてもう神輿担ぎを実施するだけになっていての直前の中止でしたので、非常に残念です。しかし、このような予想外のことがおきても速やかに対処できましたことは実行委員長、委員、関係者の皆様のお陰です。また、お祭りは中止となり、その後の懇親会に関してはいろいろなご意見をいただきましたが、予定通り懇親会を開催し、皆様に集まっていただき、神輿担ぎの発起人の千葉幕張 RC の宮本様が、ちょうどその日にご逝去され参加者の皆様とお別れの会としてもできたことは感慨深いものでした。ご冥福をお祈り申し上げます。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。





それでは、本題の卓話を始めさせていただきます。ガバナー補佐として各クラブを訪問する中で、会員増強、例会の活性化、次世代との接点、そしてクラブの将来について、多くの方から率直なお話を伺ってまいりました。

そこで今日は、「これからのロータリアン、ロータリークラブのあり方」をテーマに、過去 100 年間の日本のロータリー推移、そして 3 年前第 3 グループ：海寶さんが補佐で IM をされたときに講話されました鈴木一作さんの『What is Rotary?』を教材として、皆さまと一緒に考える時間となれば幸いです。

最初に、本日の卓話を一つの問いに集約してみます。私たちは、単に「会員数」を増やしたいのでしょうか。それとも、ロータリーを理解し、仕事と地域で奉仕を実践する「真のロータリアン」を増やしたいのでしょうか。もちろん、会員数はクラブの活力を測る大切な指標です。しかし、数字だけを追い、入会後にロータリーの価値を実感することができなければ、長続きできずに退会につながる会員がでてきます。本日の結論を先に申し上げれば、「Grow Rotarians」、つまりロータリアンを育てることと、「Enjoy Rotary」、ロータリーを楽しみ価値を実感することが、最終的には持続可能な Grow Rotary につながる、これからのロータリーになるのではということで構成いたしました。

前半では、100 年前の世界と日本、東京ロータリークラブの創立から、日本人の人口と経済と会員数の増減の変化を見ます。中盤では『What is Rotary?』の要点を、後半では親睦と学び、成長、奉仕という三つの言葉でまとめてみました。これからのロータリアンとクラブの姿、そして千葉西クラブの皆さんと一緒に考える時間を共有していただきたいとの思いで卓話をさせていただきます。

今から 100 年前：1920 年前後の世界は、第一次世界大戦後の再建を進めながら、国際協調への期待と社会の不安定さが同居していました。ロータリーは 1905 年にシカゴで誕生し、職業人が定期的に集い、互いを知り、信頼を築くところから始まりました。その輪は国境を越えて広がり、友情の集まりから、職業倫理と社会奉仕を重視する世界的な運動へ成長していきました。戦争で分断された時代に、職業人同士が国境を越えて信頼を築くこと自体が、大きな意味を持っていたのだと思います。日本はこの時代、台湾、朝鮮、樺太を領土としていて第一次世界大戦では戦勝国となり，かつての債務国から債権国とへ転換して好景気を迎え



ていました。海運・造船・重化学工業が発展をはじめていました。

日本では 1920 年 10 月 20 日に東京ロータリークラブが創立され、翌 1921 年に国際ロータリーへの加盟が承認されました。創立当時の会員数は 34 名でした。銀行、商社、産業界など、多様な職業人が集まりました。大切なのは、職業人が社会的責任を考え、国際的な信頼を築く新しい場としてロータリーが受け入れられたことです。東京ロータリークラブは単なる昼食会ではなく銀行家、商社マン、実業家、専門職が業界の壁を越えて集まり、「職業を通じた社会奉仕」と「国際社会との信頼関係」を学ぶ、日本初の本格的な職業人ネットワークの始まりだったとのことです。今日で言えば、経営者交流会、異業種の勉強会、国際ビジネスネットワークと社会貢献団体が一体となったような存在であったようです。

東京・大阪・名古屋・京都・神戸・横浜をはじめ全国の主要都市にクラブが 10 年間で 15 クラブ誕生して、日本のロータリーは全国組織への第一歩を踏み出しました。そしてその背後では、すでに世界には 3,349 のロータリークラブがあり、15 万人を超えるロータリアンが存在していて国際的なつながりを持つことができていました。

東京 RC、大阪 RC ができた後、まだ会員数が 60 名ほどだった時、1923 年 9 月 1 日に関東大震災が起こり、海外の 503 クラブから東京 RC に多額の義援金が寄送られてきました。親睦によって築かれた国際的なつながりが、救援という具体的な行動になりました。この出来事は、日本のロータリーにとって、親睦は内輪の楽しさにとどまらず、社会のために動く力を蓄える土壌であることを実感する機会だったと考えられます。今、災害や孤立、少子高齢化など地域課題が複雑になるほど、この原点は重要となっています。

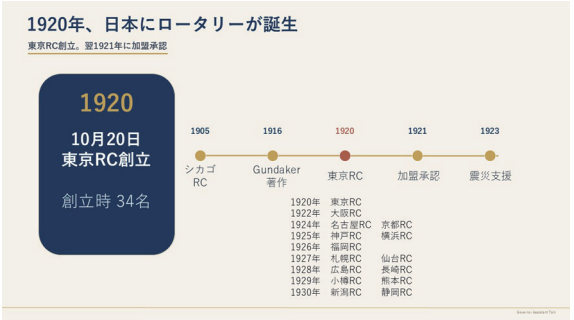
1920 年は第 1 回国勢調査の年で、日本の人口は 5,596 万人でした。今現在の人口が、1 億 2268 万人ですので半分弱の人口でした。都市化が進み、交通、産業が発展し、職業人には社会的責任と信用が求められました。ロータリーは、社会の変化に対応する職業人の学びの場であり、異業種の知恵を持ち寄る場でした。100 年前も現在も、変化の時代ほど、職業人が互いに学び、倫理を確認し、地域への責任を考える場が必要なのだと思います。

人口と会員数を重ねて見ると、成長期には両者が同じ方向に動いています。日本の人口は増加し、ロータリー会員数も 1990 年代にピーク圏へ達して約 12 万人となりました。しかし、現在は景気の伸び悩みと人口減少と高齢化が進み、会員数は約 8 万 4 千人となっています。かつてと同じ方法で会員を増やそうとしても、社会環境が違っています。量を確保するだけではなく、働き方や生活時間の変化に合わせ、参加しやすく、価値を実感しやすいクラブへと見直しを必要があります。

世界の会員数は長期的には大きく増えましたが、近年はおおむね横ばいです。日本は 1990 年代のピークから減少しています。高度経済成長期には GDP の拡大と会員数の増加が同時に進みました。一方、1990 年代以降、日本経済が伸びずに会員数も減少し続けています。経済水準に影響されて会員維持は影響を受けています。ロータリアンの働き方、家族との時間、企業文化、地域コミュニティへの参加の仕方も変異してきました。これから問われるのは、経済を上げ豊かな日本を蘇らせられる真のロータリアンを数多く育てられていけるようになるのか、例会に参加する意味、仲間と出会う意味、奉仕へ参加する意味を、一人ひとりが実感できるかどうかです。

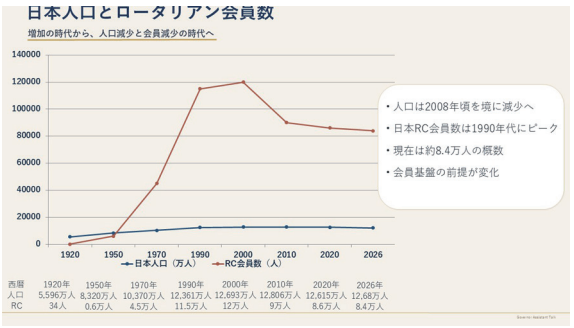
日本は会員総数で世界第 3 位の位置づけです。一方、人口比では台湾が 1 番や韓国が 2 番、3 番が米国、4 位が日本という数字となっています。ここから分かるのは、人口が多いからロータリーが強いのではないということです。地域社会の中で、ロータリーの価値が理解され、会員自身が自分の言葉でその魅力を語ることができるか。会員数が左右されます。

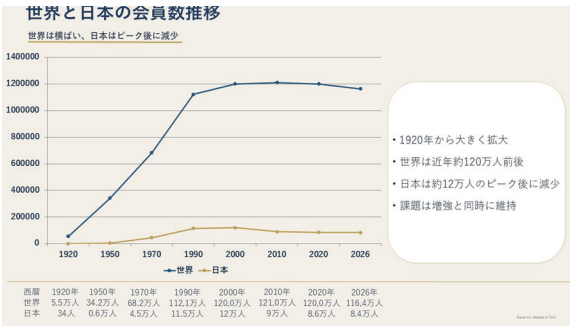
ここからは、What is Rotary? に入ります。鈴木一作さんは、ロータリーを次のように整理しています。選ばれた多様なリーダーが集い、第一に親睦と学びを基盤とし、第二に立派な真のロータリアンを育て、第三に価値ある奉仕を通じて社会に貢献する世界的な団体である。この定義の大切な点は、奉仕活動だけを切り離していないことです。親睦と学びがあり、人が成長し、その結果として価値ある奉仕が生まれる。クラブは奉仕事業を行う組織であると同時に、奉仕する人を育てる組織なのです。

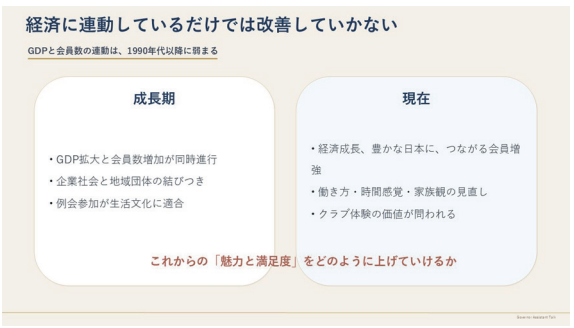












ロータリーの親睦は、単なる知り合いから、友情へ、さらに志を共にする仲間意識へ深まるものと説明されています。その基盤には寛容、Toleration があります。考え方や世代、職業、経験が違っても、互いを尊重し、まず聴く姿勢です。意見を述べることは大切ですが、他人の悪口や陰口で親睦を壊してはいけません。多様性を掲げるだけでなく、違いを受け止める日常の文化をつくることが必要です。

What is Rotary では「ロータリアンの木」という分かりやすい図が示されています。親睦と学びが養分となり、高潔さや寛容さを身につけた立派な真のロータリアンが育ちます。その人が仕事と地域で奉仕を実践し、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕という実を結びます。木の実だけを増やそうとしても、養分がなければ続きません。クラブ運営でも、奉仕事業の数だけでなく、人が学び成長しているかを持続可能を継続していく仕組みが必要となります

What is Rotary の中心的なメッセージは、Grow Rotarians と Enjoy Rotary です。クラブを大きくする前に、真のロータリアンを育てる。自分磨き、仲間磨き、クラブ磨きを行い、高潔と奉仕を実践する。そして、今日も来てよかったと思える例会をつくる。素晴らしい人に出会い、仕事や人生について学び、少し成長できたと感じる。その積み重ねが、自然にクラブ会員を維持と増強へとなり、Grow Rotary につながります。

これからのロータリアンに必要なのは、第一に高潔：仕事と日常で言行一致を示すこと。第二に寛容：違いを尊重し、若い世代や新しい職業の価値観を受け止めること。第三に学びです。歴史や理念だけでなく、デジタル化、災害、環境、福祉などの社会課題を学ぶこと。第四に奉仕：例会だけでなく、職業と地域の現場で価値を生み出すことです。ロータリーバッジを着けた時だけでなく、いつでもロータリアンであるという自覚が求められます。これからのクラブは、「出席してください」と求める前に、「出席したくなる魅力」をつくる必要があります。会員の未知の能力を引き出す例会、会員同士が理解を深める例会、仕事に役立つ景気を上げる学びがある例会、奉仕への意欲が湧く例会です。そして、参加できなかった会員が、参加しないのがもったいないと参加意欲が高まる例会作りが課題です。対面の良さを守りながら、デジタルも活用し、柔軟な参加の入口を用意することも大切です。

最後に、本日の結びとして、経済高度成長期にはロータリーも急成長しました。これからは、経済環境をより良くしていく努力と、自クラブの魅力上げて、会員満足度を上げることが求められる時代になっているのだと感じます。Grow Rotarians。まずロータリアンを育てる。Enjoy Rotary。今日も来てよかったと思えるクラブつくり、その結果として Grow Rotary が実現します。次の 100 年へ繋げるのは、制度や数字だけではありません。私たち一人ひとりの言葉、仕事、親睦、学び、そして奉仕です。皆さまとともに、入ってよかった、続けてよかった、まずは自分自身を磨いて、素晴らしい真のロータリアンが増えれば世の中は良くなって行くはずです。そうなっていきますように Grow Rotary で進化を目指して日本が再び豊かな国になること目指して締めさせていた









■ ニコニコ BOX

・白井…江上ガバナー補佐、本日は卓話をありがとうございました。
・海寶…江上ガバナー補佐のご来会を歓迎いたします。ご指導いたします。
・藤崎…本日、故大塚初代のご命日です。高雄大雨で道路の陥没など災害が出てます。

千葉西ロータリークラブ	総数	本日の出欠	出席	前々回の修正	メーキャップ	本日の出席率	ニコニコBOX	本日の合計	次週プログラム
	45名		29名		3名	70.73%		8,000円	■次週プログラム
	対象者		欠席		欠席	前々回の出席率		本年度累計	9月1日（火）
	41名		12名		9名	77.50%		241,000円	クラブフォーラム 会員増強・退会防止委員会担当 点鐘12:30　京成ホテル ミラマーレ

クラブ広報・ロータリー情報委員会　【委員長】前野拓郎【副委員長】 川﨑美嘉子【委員】 石倉章伸・*海寶勘一・*足立啓輔・*佐藤善一

※ 千葉西ロータリークラブ WEEKLY COMMUNICATIONは SNSやWebに掲載されます